

1956年: ツェラー家

コーに投資した家族

ユージェンとアンネリのツェラー夫妻にとって、コーに会議場が開設されて10周年を迎えたことは大きな出来事でした。1956年7月29日の会議で、アンネリは「私たちは家売って、そのお金をコーに寄付することを決めたのです。私たちがこの家売った相手の人はとても感激して、家の代金とは別に1万スイスフランをコーに寄付してくれました」と話しました。その家はチューリッヒの中心部にある優雅な別荘でした。その後MRAの専従で働く人々に住んでもらうために、彼らはすでにアパートに移り住んでいました。

ユージェン・ツェラーは学校の教師で、かなり厳しい教師として有名でした。1946年、彼は教え子たちをコーの開設準備の手助けのために招集しました。そのうちの少なくとも2人、リタ・ファンカウザーとスージー・ド・モンモランは、後にMRAに生涯を捧げることを決意しました。ユージェンとアンネリの3人の子供たち、ベルティ、ヒルディ、ロビもMRAで働き、その後60年以上にわたってコーでおなじみの顔となりました。

ベルティ・ツェラーはローマで長年過ごし、イタリア人にMRAの考えを紹介しました。彼らはイギリスから来た同僚たちと働いていましたが、ベルティにとって不思議なことは、この同僚たちは日曜日にヨークシャー・プディングを来客に出すことにこだわっていました。その後、ベルティは両親の晩年の世話をしていました。

両親が亡くなると、彼女はコー会議場で食料の買い付けや管理をするチームに加わり、一度に800人から1000人分の食事を提供することもありました。彼女は穏やかな人でしたが、率直に物を言うこともありました。

ロバート・ツェラーは友人たちにロビと呼ばれていた音響技師でした。彼は自分の電機機器会社を持ち、コー会議のビデオや歌のテープの編集や複製を数多く手がけていました。それ以前には、MRAの映画が数多く制作されたアメリカのマキノ島にあるMRAセンターの映画スタジオの建設を手伝いました。コーに戻ってからは、大会議場の上にある音響設備と同時通訳者用ブースの建設と保守に携わりました。

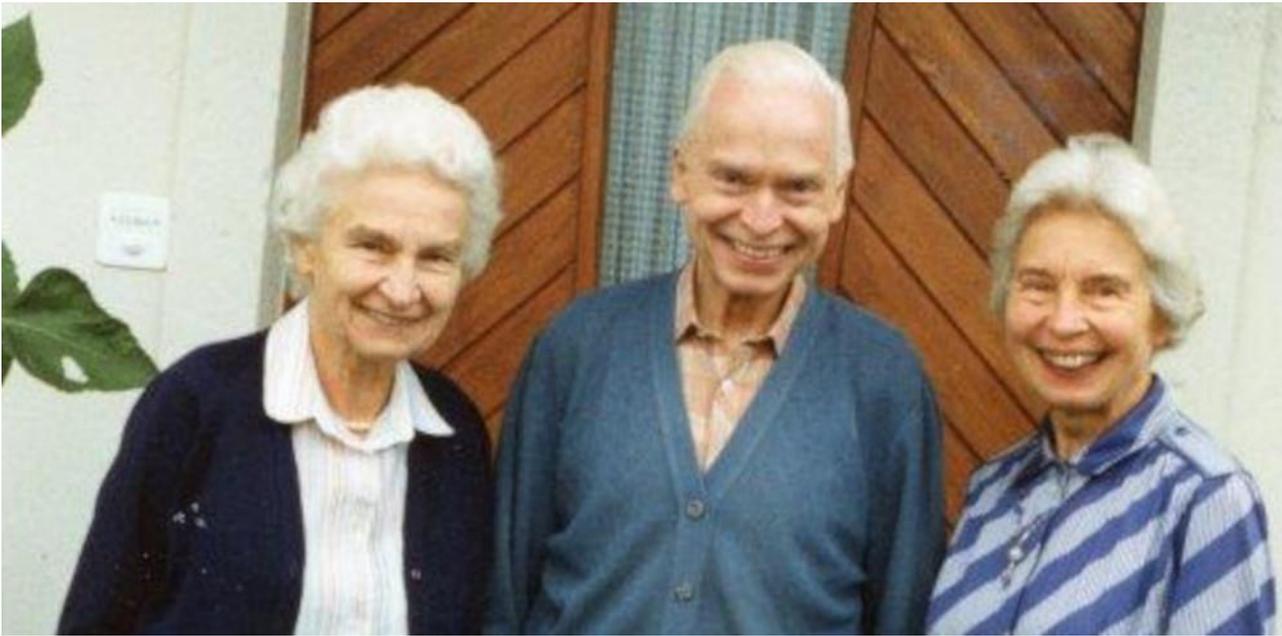
ヒルディ・ゼラーは南アフリカ、フランス、アメリカ、カナダなどでMRAのために働いた後、帰国してスイスに在住しました。彼女は、コーの会議場のケーキ用のキッチンを担当し、紅茶用のおいしいケーキを作ったり、子供たちにケーキの作り方を教えることを楽しんでいました。また、大会議場などに大きな花を生けることも担当していました。

晩年は、会議場に近いシャレーにある小さなアパートに住み、数え切れないほど多くの人々をお茶に招き、自家製クッキーを振る舞いました。彼女は、25冊分の写真をアルバムにまとめ、今情報の宝庫として、アーカイブに保管される準備中です。

コーネリオ・ソマルガが1999年にコー財団の会長に就任したとき、彼はその評議会に出席するためにコーに来る列車の中で小さな老婦人に会ったことを話しました。二人は話し始め彼女は彼をお茶に誘い、コーの歴史について話しました。この老婦人がヒルディ・ツェラーでした。

イリアン・スタリーブラス

「私たちは家売って、そのお金をコーに寄付する喜びを味わいました」



Berti, Robert and Hildi Zeller



Robert Zeller in his sound studio



Hildi and children in the baking kitchen